

• Designations indicated by: ◎ Important Cultural Property, ○ Important Art Object.
• Some artworks are on view only during the first half (28 Oct to 7 Dec) or the second half (9 Dec to 18 Jan).
• Works on display may change without notice.

List of Exhibits

No	Title	Artist/Puroduced area	Material	Century	Size(cm)	Colletction
1	Standing Buddha		gilt bronze	Korea, 8th-9th century	T.H. 18.2 H. 12.8	Matsunaga Collection
2 ◎	Seated Bodhisattva with one leg pendent		gilt bronze	Japan, 7th-8th century	T.H. 28.3 H. 21.7	Matsunaga Collection
3	Fragments of ban (Buddhist ritual banner)		silk with embroidery	Japan, 7th century	31.0×12.6	Matsunaga Collection
4 ◎ First half	Segment of a commentary on Vajracchedika-prajnaparamita	KUKAI (774-835)	ink on paper	Japan, 9th century	26.7×43.2	Matsunaga Collection
5 ○ Second half	Segment of a record of dreams	Myoe (1173-1232)	ink on paper	Japan, datede 1206	33.0×58.7	Matsunaga Collection
6	Matchlock Inlaid with figure of mythical creature karasu-tenngu		iron, wood	Japan, 16th-17th century	L. 137.0	Kuroda Family Treasures
7	Matchlock Inlaid with characters atago-yama dai-gongen		iron, wood	Japan, 16th-17th century	L. 132.5	Kuroda Family Treasures
8	Matchlock Inlaid with characters haru-yama (spring mountain)		iron, wood	Japan, 16th-17th century	L. 124.7	Kuroda Family Treasures
9	Bible illustrations of the The Banishment of Adam and Eve and Cain and Abel		oil on parchment	Europe, 13th century	10.9×7.7	Matsunaga Collection
10 ◎	Genre Scenes of Westerners		color on paper	Japan, 17th century	97.1×280.2	Kuroda Family Treasures
11	Tea bowl of Tenmoku type		pottery	China, 12th-13th century	H. 7.0 D. 12.0	Matsunaga Collection
12	Tea bowl known as “Se-no-o”, Ao-ido type		pottery	Korea, 15th-16th century	H. 6.4 D. 13.6	Matsunaga Collection
13	Guide to Japanese and Chinese potteries and other utensils of the past and present	KASHIHARAYA Seiemon and others	wood block print on paper	published in 1694	10.9×15.8	
14	Incense container in shape of crane, Shonzui type	Jingdezhen ware	porcelain	China, 17th century	H. 3.3 L. 8.0	Matsunaga Collection
15	Bowl with design of lion in underglaze blue, overglaze enamels	Zhangzhou ware	porcelain	China, 17th century	H. 9.4 D. 20.4	Matsunaga Collection
16	Tea leaf jar, with four handles		pottery	China, 13th-14th century	H. 30.3 D. 28.7	Kuroda Family Treasures
17	Tea caddy with decorative handles, Shimamono type		pottery	Thailand, 16th-17th century	H. 9.7 D. 7.4	Kuroda Family Treasures
18	Case in shape of tortoise	Cochin ware	pottery	China, 17th century	H. 5.2 L. 8.9	Honda Collection
19	Bowl with design of lotus scroll in underglaze blue		porcelain	Vietnam, 15th century	H. 7.8 D. 11.4	Honda Collection
20	Water jar with decoration in overglaze enamels	Delft ware	pottery	Netherlands, 16th century	H. 22.8 D. 14.5	Matsunaga Collection

特別展「南国」を描く。関連企画展示
異国へのまなざし

会期 2025年10月28日|火|-2026年1月18日|日|

会場 松永記念館室



出品No.20 デルフト窯《莨葉文水指》

周囲を海に囲まれた日本では、異国からもたらされる文物の刺激を受けながら様々な造形が生み出されてきました。

明治以降の日本の画家たちが持っていた「南国」のイメージを検証する特別展「『南国』を描く。」の関連企画展示として開催する本展では、異国からもたらされた作品やその影響を受けて作られた作品、そして、異国を主題にした作品などを通して、江戸時代以前の日本の人びとが異国へ向けたまなざしをうかがいます。

(学芸課 宮田太樹)



福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051 (代表) FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

仏教と三国世界観

古代の日本における異国へのまなざしを造形遺品からうかがおうとする時、最も象徴的な存在といえるのが、欽明天皇13年（552）に百済の王が使者を遣わし、金銅製の仏像や荘厳具（儀式のために堂内や屋外を飾るための道具）、経典などを献上したとする『日本書紀』の記述です。これに対して欽明天皇は「西蕃の献れる仏の相貌端厳し。（西の異国である百済国より献上された仏の顔は光輝いていて厳かである）」と述べたうえで、日本でも仏教を信仰すべきかどうか、意見を求めたといいます。この時に献上された仏像がどのような姿であったのかははっきりしませんが、『如来形立像』（作品1）のように光輝く仏像をイメージしておけば大きな間違いはないでしょう。

仏教が人びとの心をとらえた要因は、何よりも仏像（作品2）や荘厳具（作品3）といった造形の力であり、これらは異国のイメージをまといながら人びとの憧れの的となったのです。

古代、中世における日本人の異国観を示すものとして、三国世界観というものがあります。これは、天竺（インド）で生まれた仏教が震旦（中国）を通して本朝（日本）にもたらされたという認識に基づくもので、この三国によって世界が形成されているという見方のことをいいます。ここから、当時の日本の人びとにとって異国といえば、天竺と震旦であったことが分かりますが、この二国には大きな違いがありました。例えば、平安時代初めに日本に真言密教をもたらした空海（作品4）と鎌倉時代の高僧・明恵（作品5）を見てみましょう。

空海は、中国へ留学しインド僧に師事して梵語（古代インド語）経典について学びますが、インドには渡航していません。また、明恵も釈迦に対する強い思慕の念からインド行きを熱望しますが、ついに果たすことはできませんでした。彼らに象徴されるように、仏教者の多くはインドに対する憧憬の思いを持っていましたが、実際に渡航できた人はほとんどいません。あくまでも想像上の存在であり、中国よりもさらに遠い場所、といった認識であったようです。これは、貿易や外交、留学などで様々な人の往来があり、唐物（作品11）として多くの文物がもたらされる中国に対する認識との大きな違いであったといえるでしょう。

ヨーロッパとの出会い、広がる世界

前章で確認した、天竺、震旦、本朝からなるとする日本人の三国世界観は、大航海時代の到来、すなわち、ヨーロッパとの出会いによって大きく変容しました。

天文12年（1543）に種子島に漂着したポルトガル人によって伝来した火縄銃（作品6、7、8）や、天文18年（1549）にフランシスコ・ザビエルによって伝えられたキリスト教（作品9）などはヨーロッパから日本にもたらされた文化を象徴する存在といえるでしょう。《泰西風俗図屏風》（作品10）に代表される初期洋風画と呼ばれる作品群も、キリスト教布教にともなって日本で制作されたものです。

来日したキリスト教宣教師たちが、布教の初期には「天竺人」と呼ばれたことはよく知られていますが、このことは日本の人びとがヨーロッパ人を伝統的な三国世界観によってとらえようとしていたことを示しています。

ですが、ある時期から「天竺人」という語は用いられなくなり、変わって「南蛮人」という呼称が定着していくことになります。これは、ヨーロッパ人によってもたらされた世界地理に関する情報により、従来の三国世界観よりもさらに外側の世界が意識されることになったことを端的に示すものといえるでしょう。

異国の茶道具

茶の湯の世界において、中国からの舶来品である唐物（作品11）を用いることはその茶人のステータスを示すことを意味しました。中国や朝鮮半島（作品12）からの舶来品が茶道具として珍重されたことはよく知られていますが、茶人たちの関心は東南アジアやヨーロッパからもたらされた道具にも及んでいます。江戸時代中期に出版された骨董の百科事典である『古今和漢万宝全書』の1冊である『古今和漢諸道具見知鈔』（作品13）は輸入道具の一覧を国ごとに記載しており有用です。

本書の記載に従って国名とそれに対応する作品をあげてみると、南京（《祥瑞落雁鶴香合》（作品14）、《呉州赤絵玉取獅子鉢》（作品15））、流宋（《唐物茶壺》（作品16））、嶋物（《島物耳付茶入》（作品17））、交趾（《亀形合子》（作品18））、東京（《青花蓮華唐草文碗》（作品19））、阿蘭陀（《莢葉文水指》（作品20））などがあります。実に多様な道具が異国からもたらされていたことに驚かされます。

もっとも、現在のタイにあたる暹^{シヤム}牟^{ホンテンジク}の項目に「本天竺なり。」という説明文が添えられているように、これらの記述は誤解を含んだものでしたが、それだけにかえて当時の人びとの異国へのまなざしを感じさせます。このように、海外への渡航が困難であった江戸時代以前の人びとは、異国からもたらされる文物を通して、彼の地への想像を膨らませていたのです。

- ・◎は重要文化財、○は重要美術品を示します。
- ・「前期」の記載がある作品は10月28日(火)～12月7日(日)、「後期」の記載がある作品は12月9日(火)～1月18日(日)の展示です。
- ・No.10《泰西風俗図屏風》前期と後期で1隻ずつ展示します。
- ・都合により展示作品を変更する場合があります。
- ・番号は展示順と異なることがあります。

出品作品リスト

No	作品名	作者名・産地	品質	時代	法量(cm)	コレクション
1	如来形立像		青銅製鍍金	統一新羅時代 8-9世紀	総高18.2 像高12.8	松永コレクション
2	◎ 菩薩半跏像		青銅製鍍金	白鳳時代 7-8世紀	総高28.3 像高21.7	松永コレクション
3	繡仏裂		絹製、平織、刺繍	飛鳥時代 7世紀	縦31.0 横12.6	松永コレクション
4	◎ 前期 金剛般若経開題残巻	空海(774-835)	紙本墨書	平安時代 9世紀	縦26.7 横43.2	松永コレクション
5	○ 後期 夢記切	明恵 (1173-1232)	紙本墨書	鎌倉時代 建永元年(1206)	縦33.0 横58.7	松永コレクション
6	火縄銃(烏天狗図金象嵌)		木、鉄製	桃山時代 16-17世紀	長137.0	黒田資料
7	火縄銃 (「愛宕山大権現」銘金象嵌)		木、鉄製	桃山時代 16-17世紀	長132.5	黒田資料
8	火縄銃(「春山」銘金象嵌)		木、鉄製	桃山時代 16-17世紀	長124.7	黒田資料
9	聖書挿絵		羊皮紙に油彩	ヨーロッパ 13世紀	縦10.9 横7.7	松永コレクション
10	◎ ※ 泰西風俗図屏風 6曲1双のうち1隻		紙本着色	桃山～江戸時代 17世紀	縦97.1 横280.2	黒田資料
11	建盞天目茶碗		陶器	南宋時代 12-13世紀	高7.0 口径12.0 高台径3.8	松永コレクション
12	青井戸茶碗 銘「瀬尾」		陶器	朝鮮王朝時代 15-16世紀	高6.4 口径13.6 高台径4.9	松永コレクション
13	古今和漢諸道具見知鈔	柏原屋清右衛門 ほか	紙本木版	成立:江戸時代 元禄7年(1694)	縦10.9 横15.8	
14	祥瑞落雁鶴香合	景德鎮窯	磁器	明時代 17世紀	高3.3 長8.0	松永コレクション
15	呉州赤絵玉取獅子鉢	漳州窯	磁器	明時代 17世紀	高9.4 口径20.4 高台径6.8	松永コレクション
16	唐物茶壺		陶器	元～明時代 13-14世紀	高30.3 口径10.8 胴径28.7 底径10.7	黒田資料
17	島物耳付茶入		陶器	タイ 16-17世紀	高9.7 口径2.5 胴径7.4 高台径4.2	黒田資料
18	亀形合子	交趾焼	陶器	明～清時代 17世紀	高5.2 長8.9 高台径5.0 蓋高3.0	本多コレクション
19	青花蓮華唐草文碗		磁器	ベトナム 15世紀	高7.8 口径11.4	本多コレクション
20	莢葉文水指	デルフト窯	陶器	オランダ 16世紀	高22.8 径14.5	松永コレクション